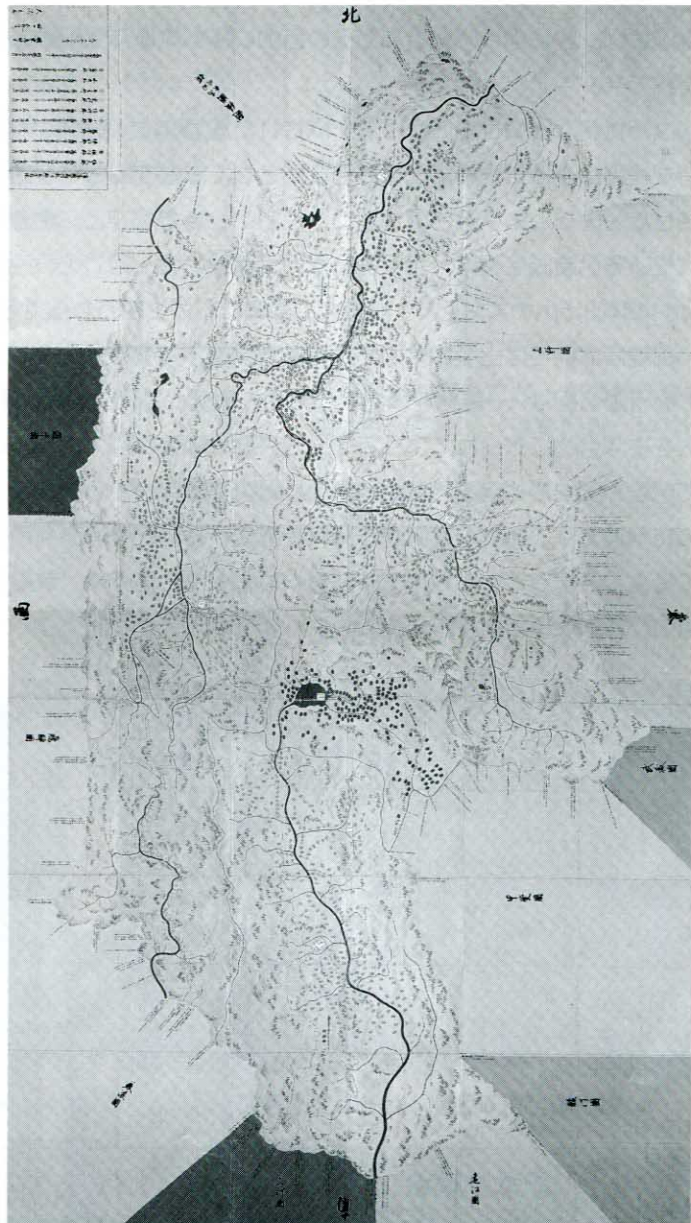


博物館だより

第43号

長野市小島田町1414 ☎026(284)9011



信濃国絵図

天保9年(1838)3月

重要文化財

国立公文書館内閣文庫

信濃2049ヵ村、一村ずつ村名と石高を郡ごとに色分けし、隣国10州との国境も色分けし説明を加える。北信の三国峠付近、南信の青崩峠、根羽村付近が現在の地図と異なっている。絵図の大きさは東西4.8m、南北8.57m。天保の国絵図の中では全国4番目の大きさ。

第40回特別展

『信濃国絵図の世界』

【期間】1998年7月26日(日)～9月6日(日) 【会場】長野市立博物館特別展示室

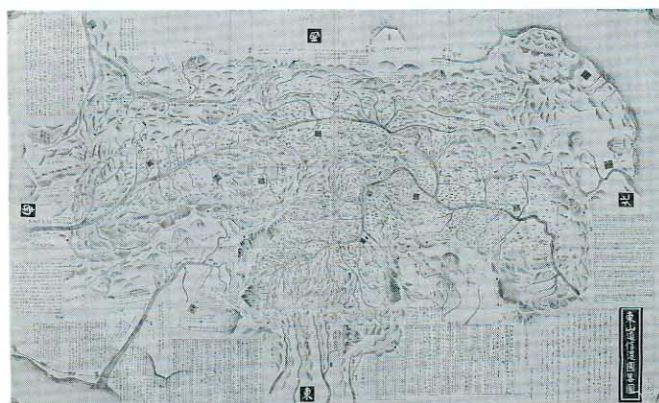
近世は国絵図、村絵図、町絵図などその目的によって様々な種類の絵図が作られ、多くの人が利用した時代です。

国絵図は16世紀から19世紀にかけて作成された国郡単位こくぐんの絵図の総称です。なかでも官撰国絵図は、幕府が絵図によってその支配領域を空間として掌握しょうあくすることを主な目的に、全国の大名に命じて作成させた一国ごとの手書きの地図で、村名と石高こくだかが郡ごとに色分けして描かれています。現在確認されている信濃国絵図は、正保、元禄、天保期の献上図やその控図があります。その大きさは縦約4.5m、横約8.5mの大絵図で、城の大広間等に広げて四方から見られるように描かれています。

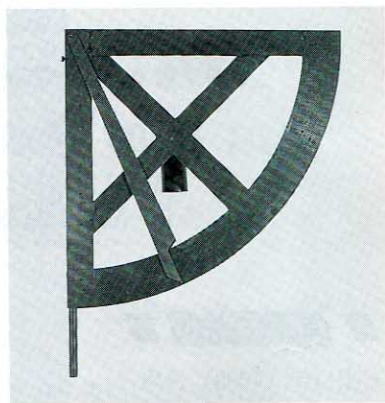
一方、民間においては出版文化の発達等を背景に、木版で刊行された絵図があらわれます。こうした民間の版行国絵図は、支配地を掌握するための絵図と違い、信濃の場合は神社・仏閣等への巡拝、旅行案内を主な目的に作られたようです。江戸時代の人々は、こうした官民双方の国絵図や地誌類を通じて信濃一国の形と自らの郷土を認識したのではないのでしょうか。

今回の特別展では、各々の絵図が作られた背景、絵図の作者や利用の仕方などを、絵図との対話を通して考えてみようとするものです。資料は重要文化財4点、県指定文化財1点、市指定文化財5点を含む65件を展示します。

(文責 降幡浩樹)



▲東山道信濃国略図 上田市立図書館



▲小象限儀 池田穰氏

記念講演会「国絵図の刊行と流布」

講師 三好 唯義 氏 (神戸市立博物館 学芸員)

日時 8月8日(土) 午後2時から

会場 当館2階会議室 聴講無料

展示説明会 7月26日、8月2日、23日、30日 午後2時から

会場 特別展示室前集合

「古豊野湖の地層と化石」

期間 6月13日(土)～9月6日(日)

〈はじめに〉

茶臼山自然史館では、今年度から県内の化石や地層、身近な自然を紹介する企画展を、年間を通じて数回開催することになりました。今年は「茶臼山の植物化石」に続いて、現在「古豊野湖の地層と化石」展を開催しています。博物館だよりでは、これからの自然史館の企画展についてシリーズでご紹介していきます。

〈長野に巨大な湖があった〉

長野盆地のまわりに、豊野層という約50万年前の地層が広く分布しています。この地層は、含まれる地層の特徴から昔の湖の底やまわりにたまったものと考えられています。豊野層とその相当層は北は飯山市から南は篠ノ井の塩崎まで分布しているため、かつてこの範囲に巨大な湖が広がっていたと考えられています。この湖を、ここでは「古豊野湖」と呼ぶことにします。

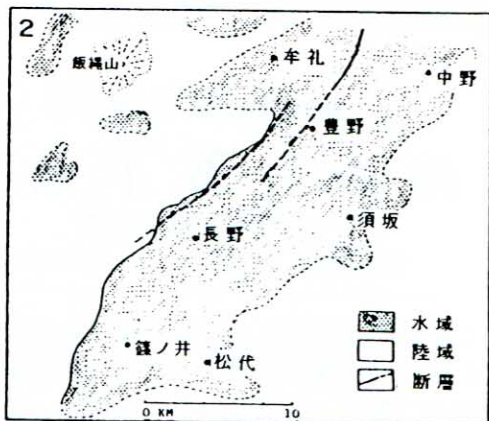
古豊野湖は、長野盆地を形成した地殻変動と関連してできた湖です。約50万年前まで、長野の地形は、今と大きくちがっていました。東側には河東山地が今と同じくらいに高くそびえていましたが、西側は北アルプスのふもとまでなだらかな平野や丘陵が広がっていました。ところが、約50万年前から始まった地殻変動によって西側が持ち上げられて山地になり、山地にはさまれた部分に長野盆地が形成されたのです。古豊野湖は、誕生間もない長野盆地のくぼみに川から運ばれた水がたまって生じたのでしょうか。しかし、湖は川が運んでくる砂やどろで埋められてやがて消えてしま



▲貝などの化石を含む豊野層の泥の層 (牟礼村番匠)



▲豊野層から産出したオオタニシの化石(牟礼村番匠産)



▲古豊野湖が最も広がった頃の長野盆地周辺の古地理図 (豊野団研、1977に加筆)

いました。なお、長野盆地や古豊野湖をつくった地殻変動は現在でも続いています。約150万年前に起こった善光寺地震も、この運動によって活断層が動いたために起こったもので、このような地震が長野盆地では約1000年に一度の周期で起きています。

(文責 畠山幸司)

常設展示 慈悲のまなざしコーナー特別公開

今年度当館では「古代の小金銅仏」（盛泉寺・山千寺）、「善光寺信仰」（南照寺・八木虚空蔵堂）の2つのテーマで1年間交互に展示を行っています。仏像は県内を中心に、各テーマにそった4軀を展示しています。9月20日からは市内吉山千寺の銅造観音菩薩立像を展示します。お楽しみに。

はたまち じょうせんじ
東筑摩郡波田町 盛泉寺

銅造菩薩半跏像

波田町指定文化財

公開期間 7月12日(日)～8月9日(日)

本像は県内に残る数少ない^{しょうこんどうぶつ}小金銅仏の遺品の一つで、もと真言宗の古刹、若沢寺に伝わり、^{はいつきしやく}廃仏毀釈によって盛泉寺に移ったとされています。像は頭に髻を結び、特徴ある^{さんめんとうしよく}三面頭飾をつけ、髪ざわを額中央でふりわけています。小作りの目鼻立ちを刻む^{めんぼう}柔和な面貌は、白鳳期の童顔とはことなります。胴を引き締め、縁取りのある裳を大きく台座にかけ半跏しています。台座を別製で作り、現在のものは後補。

盛泉寺にはこの他若沢寺関係の資料として、鎌倉時代後期とされる懸仏（薬師如来座像一^{かけほとけ}波田町指定文化財）、不動明王立像などがある。



▲像高 15.1cm

ほんじょうむら やぎこくうざうどう
東筑摩郡本城村 八木虚空蔵堂

鉄造阿弥陀如来立像

本城村指定文化財

公開期間 8月23日(日)～9月13日(日)



鉄造の如来像で、背面に「為入一切衆生骨 一二月 日 西阿 建治元年(1275)」と刻まれ、年代のわかる鉄仏として貴重な仏像です。

本像とほぼ同一の原形から抜いたとされる鉄像が埼玉、栃木県に伝えられ、埼玉県飯能市福德寺には、鉄造の善光寺式阿弥陀三尊立像が県の文化財に指定されています。本像も善光寺式三尊の中尊の阿弥陀如来である可能性があります。

鉄仏は、鎌倉時代から室町時代にかけて関東地方を中心に盛行をみた仏像群で、本像も広い視野からの研究が必要です。
(文責 降幡浩樹)

▲像高 48.0cm 台座は後補